

2024年度 中間期 決算説明会

2024年11月13日

田岡化学工業株式会社
取締役社長 佐々木 康彰

目次

- 1. 会社概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 2. 2024年度中間期決算概要・・・・・・・・・・ 4
- 3. 2024年度見通し・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 4. トピックス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

- 1919年 創業 1934年 設立
- 1949年 株式上場 1955年 住友化学出資
- 2000年 「三建化工株式会社」合併

- 田岡化学工業株式会社 Copyright 2024 Taoka Chemical Co., Ltd.

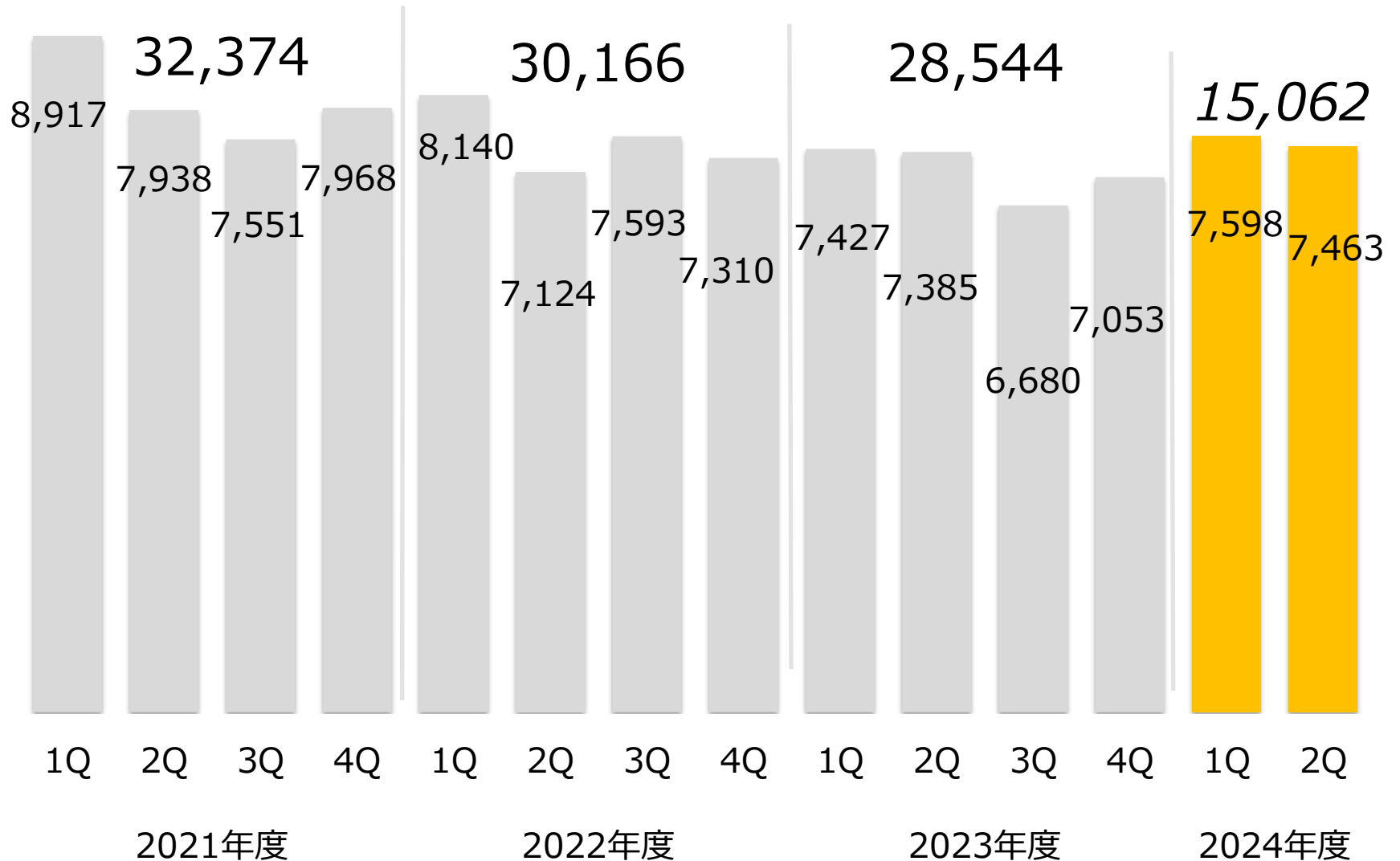
2. 2024年度中間期決算概要

(単位：百万円)

	2023年中間期	2024年度中間期	増減
売上高	14,812	15,062	250
営業利益	573	898	324
経常利益	620	948	328
当期純利益	460	638	179
為替レート(円/ \$)	142.61	152.45	9.84
ナフサ価格(円/KL)	65,600	78,000	12,400

四半期売上高推移

(単位:百万円)



事業部別売上高前年同期対比

(単位:百万円)

精密化学品

7,250

6,875

△375

2023年2Q

2024年2Q

医農薬中間体出荷数量減

樹脂原料出荷数量減

:顧客の在庫調整続く

機能材

1,688

1,791

+104

2023年2Q

2024年2Q

ゴム薬品増収

:出荷数量回復や円安の影響

樹脂添加剤

5,585

6,084

+499

2023年2Q

2024年2Q

ワニス増収

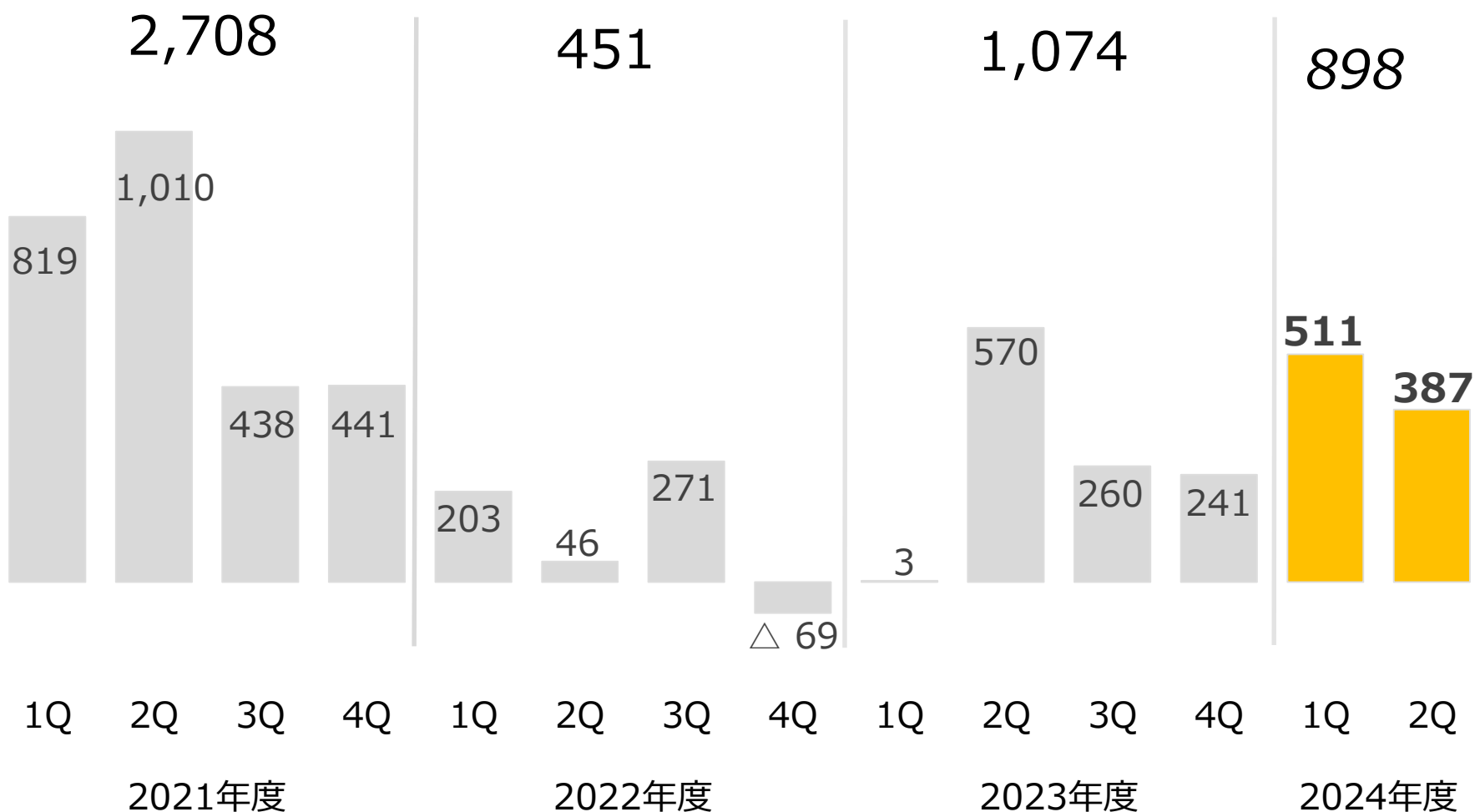
:販売価格下落も出荷数量増加

可塑剤増収

:販売価格適正化

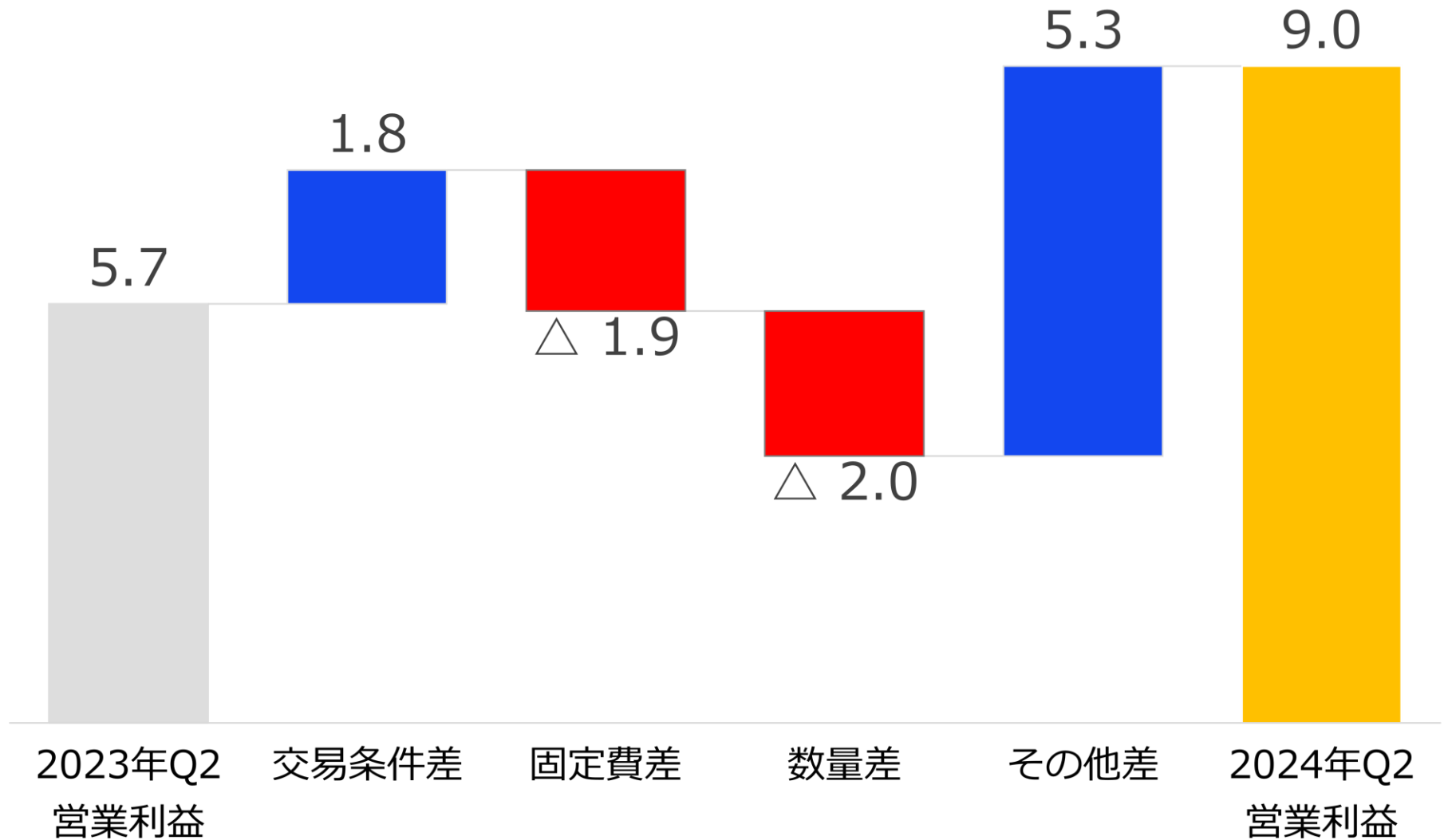
四半期営業利益推移

(単位:百万円)



3.前年同期対比営業利益分析

(単位：億円)



連結貸借対照表

(単位：百万円)

	24.3末	24.9末	増減		24.3末	24.9末	増減
流動資産	15,167	15,349	182	負債	12,509	12,132	△377
売上債権	5,519	5,389	△130	仕入債務	4,320	4,682	362
棚卸資産	8,406	7,643	△763	有利子負債	2,293	1,883	△410
その他流動資産	270	1,142	872	その他負債	5,896	5,567	△329
固定資産	14,553	14,529	△24	純資産	17,211	17,746	535
資産合計	29,720	29,878	158	負債純資産合計	29,720	29,878	158
				自己資本比率	57.9%	59.4%	1.5%

連結キャッシュ・フロー

(単位：百万円)

	2023年中間期	2024年中間期	増減
営業キャッシュ・フロー	2,721	2,319	△402
投資キャッシュ・フロー	△631	△ 786	△154
フリーキャッシュ・フロー	2,090	1,533	△557
財務キャッシュ・フロー	△2,044	△ 546	1,498
その他の	23	65	41
現金及び現金同等物の増減	69	1,052	983
現金及び現金同等物の 期末残高 (預託金含む)	923	2,024	1,101

3. 2024年度見通し：業績予想（10月29日修正）

（単位：百万円）

	前回予想 (2024/5/14)	今回予想 (2024/10/29)	増 減	2023年度 実績
売上高	30,000	30,000	—	28,544
営業利益	1,200	1,450	250	1,074
経常利益	1,250	1,500	250	1,141
当期純利益	900	1,050	150	820
配当（円 / 株）	18円	21円	3円	18円
為替レート(円 / \$)	140.00	149.00	9.00	145.31
ナフサ価格(円/KL)	73,000	74,400	1,400	69,100

3. 2024年度見通し：セグメント事業部別売上高

(単位：百万円)

	前回予想 (2024/5/14)	今回予想	増 減	2023年度 実績
化学工業セグメント 計	29,350	29,350	—	27,927
精密化学品	12,700	12,700	—	12,672
機能材	3,550	3,550	—	3,388
樹脂添加剤	13,100	13,100	—	11,865
化学分析受託事業	650	650	—	617
合 計	30,000	30,000	—	28,544

前回予想から変更なし

樹脂原料 需要動向及び来期の見通し

- ・スマートフォンの出荷状況

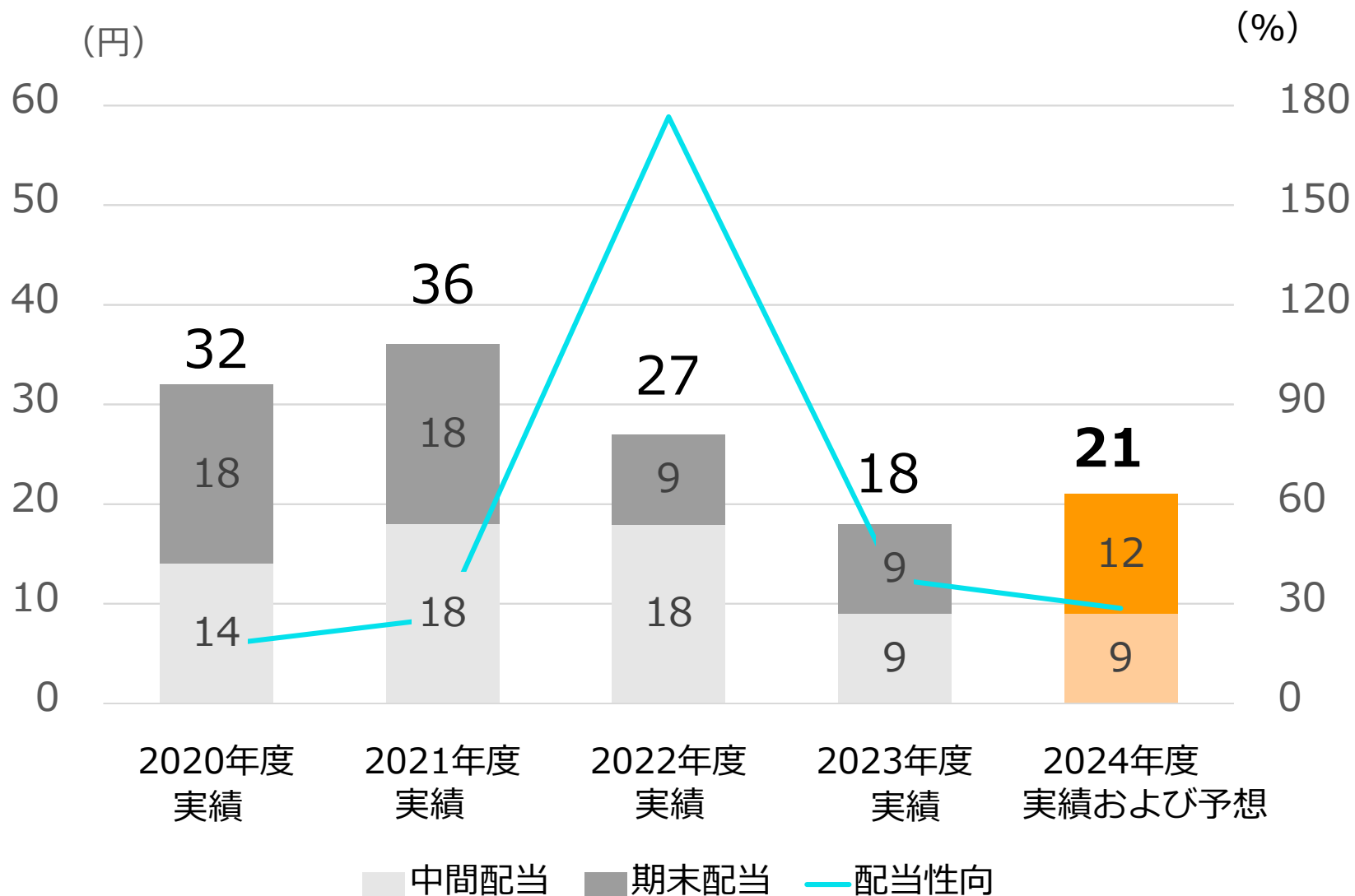
- ①調査会社によれば2023年のスマートフォン出荷台数は予測値から約2%上振れて着地。(11.3億台⇒11.56億台)
- ②同じく2024年は、11.87億台が予測されており更なる上振れも期待されている。

- ・当社材のトレンド

スマートフォン市場の回復基調により、一部のグレードで顧客での在庫調整が完了し、当期は期初計画を若干上回るレベル。

来期は一層の回復を見込んでいる。

2024年度：配当実績推移及び配当予想



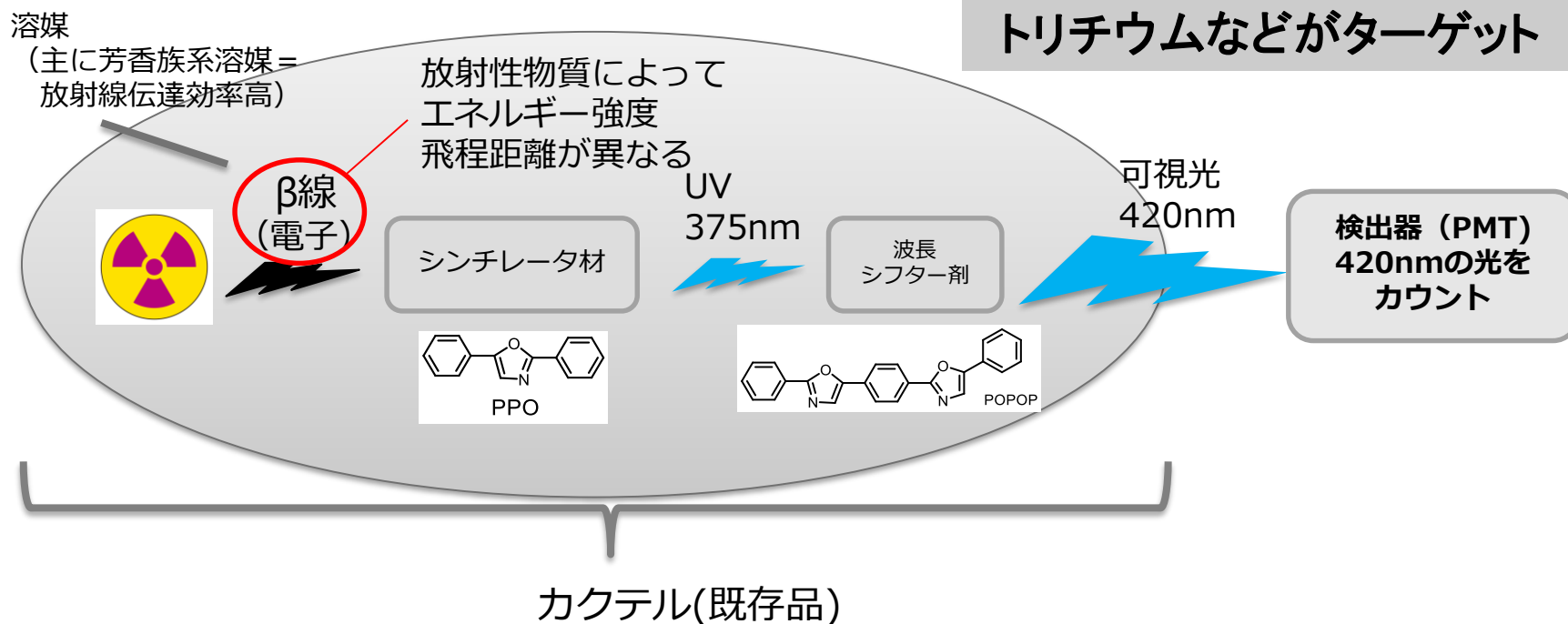
4. トピックス

- (1) ナノグラフェン類の開発
- (2) 生分解性、バイオマス可塑剤の開発
- (3) 樹脂原料のケミカルリサイクルを開始

4. トピックス（1） ナノグラフェン類の開発

名古屋大学と、**グラフェンナノリボンを含むナノグラフェン**の共同研究を継続中であり、2024年4月より**シンチレータ※評価**に関する内容を追加

シンチレータとは。



※**シンチレータ**は、放射線検出器、医療機器、資源探査などの用途に使用される、**放射線で蛍光を発する物質**

4. トピックス（1） ナノグラフェン類の開発

下記ナノグラフェン類をシンチレータ用途に評価中。試薬販売開始。

安定した半導体特性、発光特性を有する「ナノグラフェン」販売開始

(製造元：田岡化学工業株式会社)

NanoPapillon-H

ヘキサベンゾ[a,c,f,g,i,l,o,p]テトラセン
(CAS RN® 1314519-09-9)



01 半導体特性

P型特性/移動度(Bare) $1.56 \times 10^{-4} \text{ cm}^2/\text{Vs}^*$
*同条件測定の場合、同程度のサイクル特性にも優れる。

サイクル特性

サイクル数	$\mu\text{h}(\text{cm}^2/\text{Vs})$	$V_{\text{th}}(\text{V})$
1	2.80×10^{-4}	-22.2
10	3.13×10^{-4}	-24.2
50	3.09×10^{-4}	-24.7
80	3.04×10^{-4}	-24.9
100	3.02×10^{-4}	-24.9

表面処理剤：HMDS、膜厚：30nm、 V_D ：-100V

02 発光特性

紫外（UV）光照射により高効率で青色に発光します。

<溶液>



<固体>



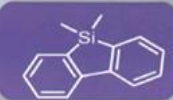
[発光例(UV=365nm照射)]

製品コード	製品名	容量	価格
060-38173	NanoPapillon-H	100mg	18,000円

*記載されております試薬は、試験研究以外に使用しないでください。

ジベンゾシロール

5,5-ジメチル-5H-ジベンゾ[b,d]シロール
(CAS RN® 13688-68-1)



用途例

- ✓ ナノグラフェンの原料※
- ✓ 有機半導体ビルディングブロック
- ✓ 有機EL発光素子
- ✓ 太陽電池素子に代表される有機半導体の合成原料
- ✓ その他各種有機材料の出発原料

(米国特許US2011/0057182号、国際出願特許2020/059484号 等参照)

※ジベンゾシロールを用いたナノグラフェン合成例

ジベンゾシロールは、名古屋大学大学院理学研究科 伊丹健一郎教授/伊藤英人准教授らによって開発された、画期的なナノカーボン合成反応「APEX®反応」の必須原料として知られています。



K. Itami et al, Nat. Commun. 6, 6251 (2015)
*Annulative mD Extension

製品コード	製品名	容量	価格
060-24411	ジベンゾシロール	1 g	14,000円

*記載されております試薬は、試験研究以外に使用しないでください。



KISHIDA

キシダ化学株式会社 KISHIDA CHEMICAL Co., Ltd.
WEB: <https://www.kishida.co.jp> E-mail: shiyaku@kishida.co.jp

本社(大阪)	TEL (06) 6946-8134	FAX (06) 6946-8135
東京	TEL (03) 5625-5591	FAX (03) 5625-5592
つくば	TEL (029) 833-6011	FAX (029) 833-6012
沼津	TEL (055) 926-6711	FAX (055) 926-6712
福岡	TEL (092) 822-0422	FAX (092) 621-8954
山口	TEL (0834) 22-3177	FAX (0834) 22-2625

K177-2401

4. トピックス（2） 生分解性、バイオマス可塑剤の開発

石油由来の非生分解性プラスチックによる環境汚染等の問題に対応するため、生分解性プラスチック向けの**生分解性バイオマス可塑剤**(BPCシリーズ)を開発中。

- 従来から生産しているラップ用、潤滑油用等の可塑剤において、その原料を生物資源に代替した**バイオマス可塑剤**（Bio-ATBC等）の開発にも注力している。
- BPC, Bio-ATBC共にスケールアップ製造を予定
- 開発品はホームページや各種展示会を通じ、積極的なサンプルワークを展開中。一部は販売を開始



4. トピックス（3）樹脂原料のケミカルリサイクルを開始

これまでは廃材であった樹脂製品の端材をケミカルリサイクルで樹脂原料に再生し、環境に配慮したモノづくりをしています。

- 樹脂製品の成型時に発生する端材を化学的処理により分解
- **独自の手法**を用いて樹脂原料モノマーを**高純度**で回収
- 回収品により再度樹脂製品へ
- 一部の樹脂製品端材についてはすでに工場でのケミカルリサイクルを開始しており、順次他の樹脂製品端材からの回収も計画



質疑応答

ご質問方法

「挙手」ボタンをクリックください。順次ご指名します。

(ご質問終了後「手をおろす」をクリックください。)

もしくは、Q&Aボタンにて質問を入力ください。

(Q&Aボタンは「詳細」内にある場合もございます)

※質疑応答要旨作成のため文字起こしをさせていただきます。

2024年度 中間期 決算説明会

ご参加いただき、誠にありがとうございました。